

## 刊行に寄せて

「幼保小連携推進協議会」は、子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼児期と児童期の教育を円滑に接続することを目的とし、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の教職員が一堂に会し、研修・交流・協議をしております。発足3年目を迎えた本年度は、各区において計画的、組織的、継続的に、より充実した内容の協議会が推進されてまいりました。子どもの育ちの道筋を教職員が共に学び、目指す子ども像や指導内容の相互理解が年々深まってきていることを実感しております。

「札幌市学校教育の重点」では、子どもの発達の段階を踏まえた学校経営や教育課程の編成及び実施等、学校教育の今日的課題として校種間の連携のより一層の充実を掲げております。幼児期（学びの芽生え）と児童期（自覚的な学び）をつなぐためには、幼児期から小学校わたって教育を見通し、円滑な連続・接続に向けた取組を推進することが重要です。小学校における「スタートカリキュラム」の整備など、今後もより進んだ連携・接続の取組が求められ、「幼保小連携推進協議会」の果たす役割はますます高まっていくことと考えております。

今年度も多くの園、学校に交流の取組を寄せていただき、実践事例集を刊行することができることを大変うれしく思っております。3か年計画の2年目となりますが、事例では子どもたちが交流の中で生き生きと活動する姿や教職員が互いの教育・保育内容等について交流する様子が紹介されております。子どもたちが自ら関わり合おうとする姿、他者意識が育っている姿などから、子どもたちの心の通い合いや活動が生まれている様子が伝わり、連携の積み重ねが確かな実践につながっていると実感しております。また、今年度の「幼保小連携モデル事業」は、栄南小学校と発寒小学校において実施され、幼稚園・保育所との様々な事例を通して、連携・接続を推進する実践研究がまとめられました。

本市における幼保小の連携・接続が、より実践的に推進され、子どもたちが幼保小連携という大きな輪の中で健やかに育ち、「幼保小連携推進協議会」が更に発展していくことを願うとともに、この実践事例集が、各園、学校の特色に応じて活用され、教育・保育の更なる充実が図られることを期待しております。

平成28年3月

札幌市教育委員会

児童生徒担当部長 松田 昌樹

# 幼保小連携推進協議会の設置について

## ● 目的 ●

子どもの発達や学びの連続性を保障するために、幼児期の教育(幼稚園・保育所・認定こども園における教育)と児童期の教育(小学校における教育)を円滑に接続する。

## ● 設置の概要 ●

- 全市のことを協議 「札幌市幼保小連携推進協議会」  
開催回数・・・年1回程度開催
- 各区のことを協議 「区幼保小連携推進協議会」  
開催回数・・・年3回程度開催

## ● イメージ図 ●

## 更なる継続的な幼保小の連携のために

各区研究実践園を中心に幼保小の連携を推進

より**組織的、機能的、継続的**に体制整備を行う

## 幼保小連携推進協議会

各区に協議会を設置し、幼保小の管理者・教職員の定期的な会を実施

札幌市幼保小連携推進協議会（年1回開催）

区幼保小連携推進協議会（年3回程度開催）

- 1回目 幼保小の管理者・教職員の顔合わせ  
交流計画
- 2回目 全体研修（講演会等）  
実践交流
- 3回目 区幼保小連絡会  
次年度へ向けて（反省・計画等）

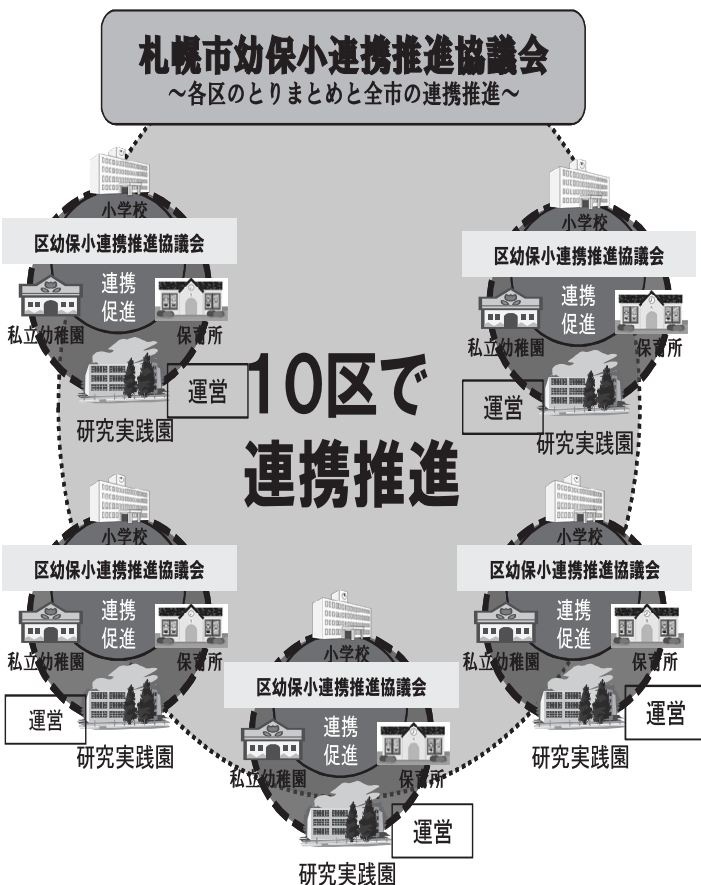
### 考えられるメリット・効果

子どもの  
入学前後の情報交換

子どもの  
交流活動の充実

幼保小の一貫性  
のある教育活動

教職員の相互理解



10区で  
連携推進